



Basic & New

3-035VHF-00-01
日本ペイント株式会社
製品使用説明書Hi ビニレックス耐水パテ (仕上)
合成樹脂エマルジョンパテ規格表示
特長JIS K5669 合成樹脂エマルジョンパテ 耐水形薄付け用
・水系、非危険物、1液形なので、臭気が少なく、ポットライフがない取り扱いやすい商品です。
・作業性、付着性に優れています。

塗料性状

| | | | | | | |
|-----------------------------|-----------------|------------|-------------|------|----------|------|
| 色 | 白色 | | | | | |
| 密度(g/cm ³)(23) | 1.70 | | | | | |
| 光沢 | つや消し | | | | | |
| 引火点 | - | | | | | |
| 発火点 | - | | | | | |
| 消防法表示 | 化学名 | - | | | | |
| | 危険物区分 | - | | | | |
| | 危険物等級 | - (-) | | | | |
| 有機溶剤区分 | なし | | | | | |
| 毒劇物表示 | - | | | | | |
| 有害物表示 | - | | | | | |
| ホルムアルデヒド放散等級 | 登録(認証)番号 | JIS K 5669 | | | | |
| | 区分表示 | F | | | | |
| 問合せ先 | - | | | | | |
| 国連/指針番号 | - | | | | | |
| 環境性能 | ホルムアルシド | 配合せず | ホルムアルデヒド | 配合せず | トルエン | 配合せず |
| | キシレン | 配合せず | パラジクロロベンゼン | 配合せず | エチルベンゼン | 配合せず |
| | スチレン(モノマー) | 配合せず | フタル酸ジ-n-ブチル | 配合せず | テトラカ | 配合せず |
| | フタル酸ジ-2-エチルヘキシル | 配合せず | ゲイジノ | 配合せず | アセトアルデヒド | 配合せず |
| | フェノール | 配合せず | 鉛 | 配合せず | | |
| T V O C | 配合せず | | | | | |

塗装基準

荷姿: 20kg
希釈剤: 水道水
塗装方法:

| | |
|---------|-------------------------------|
| 塗装方法 | こて塗り |
| 希釈率 | 0~3% |
| 使用量 | 0.24~0.36kg/m ² /回 |
| 膜厚(ドライ) | 500μm |

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

乾燥時間:

| | | | |
|--------|------|-------|----|
| | 5~10 | 23 | 30 |
| 指触乾燥 | - | - | - |
| 塗り重ね乾燥 | - | 3時間以上 | - |

- ・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

特記事項

- ・絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。

注意事項

- ・塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- ・乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ・風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ一液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラー、ファインパーフェクトシーラーをご使用ください。
- ・シーリングの上には、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ・素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケット科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
- ・表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ・内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- ・材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
- ・開缶後放置する時は皮が張らないようにポリエチレンシートなどでシールし、保管してください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、

シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。

- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・塗料は内容物が均一になるようによくかき混ぜてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・開缶後は皮張りがしやすいため、表面にうすく希釈剤を張り、ふたをしておくと、皮張りを遅くすることができます。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved.

この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。